生徒自らが学びを深め拡げる学習指導を考える

～「学び」を「勉強」にさせない教科の探究化実践～

中学校３年生「社会科（公民分野）」の授業から

Proposals for the Significance and Practice of “Active Learning” to Foster Autonomous Learners

法政大学小金井キャンパス兼任講師　藤牧　朗

要旨

現行の学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）」を実践した授業（以下「アクティブラーニング型授業」とよぶ）方法の意義について提案する。実際に行ってきたいくつかの授業スタイルとその方法を用いたときの生徒たちの反応（感想など）を示すことにより、これからの授業の在り方について考察し、さらにこれからを生きる生徒たちのためにどのような授業ができるのかについて考えるきっかけとしたい。

その主な目的は、目の前にぶら下がっている「受験（入学試験）」やそのための定期考査や模擬テスト等における高得点を最終地点として目指すということではなく、「学ぶことのたのしさ」や「課題発見」「問題解決」における対話や協働の価値ある役割を感じ取ることにより、「学び続ける力」や「協働して活動する意識」を育んでいくことを考えている。

「自ら進んで学び続け、民主主義社会を支える自律的な人財」を育成することこそが教育を担う私たちの使命であると考え、そこを目指す授業の実際を示すとともに、その現状について生徒の声を基に省察する。

Abstract

This paper proposes the significance of instructional methods that implement “Proactive, Interactive, and Deep Learning” (commonly referred to as Active Learning) as outlined in the current Courses of Study. By presenting various classroom styles practiced by the author and analyzing students’ responses, this study examines the ideal form of future education. It aims to provide an opportunity to reconsider how educators can better support students living in a rapidly changing era.

The primary objective of this approach is not to treat high scores on entrance examinations, periodic tests, or mock exams as the final goal. Instead, it focuses on nurturing the “capacity for lifelong learning” and a “spirit of collaboration.” By experiencing the value of dialogue and cooperation in “joy of learning,” “task identification,” and “problem-solving,” students develop essential competencies for the future.

We believe that our mission as educators is to cultivate autonomous individuals who continue to learn independently and support a democratic society. This paper presents the reality of such classroom practices and reflects on the current state of education based on the authentic voices of students.

０．生徒の想い～生徒アンケートから～（一部抜粋／誤字や表現を一部修正）

（１）４月当初（初めての生徒の感想と希望）

・ みんなで話し合いながら取り組めたのがよかったです。この授業形式だと嬉しいです。
・ 今までの授業と違って自分で考えることがメインだったから新鮮だった。
・ 今までやったことのない授業形式で、自分で考えることが大切になると思いました。
・ 過去と現在の比較や理想の社会の姿を話し合う中で自分の頭を良く使うことができました．これからも考えることを止めず、自分の考えを分析していきたいです。
・ 今日の授業は楽しかったし、提出したものを共有したことにより、他の人の考えも知ることができて自分が分からなかったことも知ることができて、考えがより深まった。公民や政治、経済は苦手だけど頑張りたい。
・ 形式が新鮮で次回からの授業が楽しみです。今後も私たちが能動的に学べる授業を期待しています。
・ 昔と今の違いを知る事ができました。お金持ちに

なりたいと思いました。
・グループで共有する授業形式が楽しかったです。これからも共有しながらできたらいいと思います。
・グループで活動するのがあんまり得意じゃないけど今日は楽しかった。
・授業時間のほとんどをグループで活動する，という授業形式が新鮮だった。次回からもう少し積極的に発言したい。
・昔の様子が知れて良かった生徒の人数がこんなに多かったなんて知らなかった
・話し合いして深められるからやる気が生まれる。これから公民頑張っていきたい
・人の考えが聞けて楽しい　できれば次回意見交換する話題をあらかじめ宿題のように伝えてもらって、家でじっくり考えたい
・社会ではこんなに自分で考えて自分なりの結論を出すことがなかったので新鮮だった。
・授業という感じではなくて、これからの未来を考えるいい機会だった、という感じ。これからも話を聞くだけでなく、公民に関することについてみんなの意見を見てみたい。
・時代の移り変わりによる変化について、間違い探しのように探しながら知ることができた。グループで相談できて楽しかった。これからもコミュニケーションを大切にしたい。
・過去の社会、今の社会、未来の社会のそれぞれを比較でき、生徒主体（話し合い）による授業の進め方だったので話の流れが掴みやすかったです。地理や歴史と比べて公民は、今を生きる私たちの生活に深く関わってくる科目だと思うので、これからも積極的に意見を出し、未来について考えていきたいと感じました。

（2）7月（感想）

・あまり話したことない人と色々な意見を出せあえてよかったです
・お互い議論している間喋らず大人しくしていていい話し合いになったと思う
・相手側の主張に納得できるところや反論できるとこがあった。色々な意見が聞けて楽しかった
・冷静な話し合いのスキルはあって得の多いものなので良かったと思う
・普段の授業ではグループで活動するので、ペアで活動することなんて滅多にないので新鮮味があって楽しかったです。先生が言っていた通り、人が意見を話しているときは口出しをしてはいけないことを再確認しました。どの人にもその人なりの意見、考えがあるので、それを遮ってまで意見を潰すのは不適切だと思いました。
・相手の主張を聞いてから、その意見に答えるのが難しかった。両方の意見に共感できたので、そういう状況が本当に起きたらどうなるのだろうと思った。
・2人ともなりきっていて議論している雰囲気があり、お互いを尊重してできたと思う。お互い、それぞれの立場になってみると、気づかないことにも気づけて、学びを深めることができた
・相手の意見に飲み込まれそうで、危なかったです
・めっちゃ仲良しな友達で言い合いなんかしたくなかったけど、自分も相手も本気で言い合ってみた。その気持ちになりきって話した。
・自分の主張を伝えるのって整理が必要で、思った以上に大変だなと実感しました
・いろいろな視点から考えることができるんだな、と思った。
・人と話して自分の言いたいことをわかりやすく、相手が納得できるように説明する力がついたと思いました。
文字を見て1人だけで考えるより、人に話しながらの方が楽しんで学習できるし、いろいろな視点から物事を見ることができていいなと思いました。
・相手の主張について答えを出すのが難しかった。自分の意見はしっかり考えられたとおもう。
・どちらかの意見にまとまるところまではいけなかったが、お互いの意見は言えたし相手が話している間に反論するようなこともなかった。歴史の授業でも似たようなペアワークをやったが、自分の意見を相手に伝えるためにはやはりそれなりの知識と国語力がないといけないんだなと実感した。
・今回の話し合いの議題は、どちらの主張も正しいように思えた為、話し合いが難航した。しかし、他人と今回のような難しい話題について議論するような機会は、これまであまりなかったので、有意義な時間だったと思う。
・どちらの意見も正しいような気がして難しかった。
・今日のペアワークでは、相手の意見を聞いている時に、でも！と、意見を言いたくて、うずうずした。
・ペアワークで、立場が勝手に決められるので、双方のメリット、デメリットを考えなければならないので、難しかったが、自分が思っていなかったような、新しい見方もあり、楽しかった。また討論したい。また、人が話している時に話さないというのも、話している側がすごく話しやすいなと感じたので、他の授業でも気をつけたい。
・一人で2つの立場から考えるよりもシンプルで一

つのことに集中して考えられるからよかった
・自分はBの立場だったけど、Aに同情してしまってあまり強く意見を言えませんでした。何か解決策を考えるとしても、どのような視点から見るかによってかなり状況が変わってくるので難しいと思いました。人権は全ての人に保障されるものだけど、この場合はAを優先するかB全体を優先するかの2択のような感じになってしまっていて全員に平等にするのはほぼ不可能だということがわかりました。

（3）12月

1）感じてきたこと

・いままで悪いと思っていた物事がいいことだったとわかったり、またその逆もあったり、社会科では特に教科書から学ぶだけでは得られないような情報が多いなと感じました。また、しっかり調べながら学んでいると、上手いこと身近な物事に繋がったりもして、改めて社会科の学習は自分ごとで考えないとなとも感じました。
・この社会の授業は寝る人（私はいつも寝ていないけど）が少ないと感じていました。演劇やグループ発表が毎回どの班も面白くて、ずっと見ていられると思っていました。
・ノートをまとめる時間があったのはありがたかった。
・もちろん公民の内容もしっかり身についたが、プレゼンやスピーチをする能力も身についたと思う。
・去年から授業形態が変わり、より授業が楽しく感じました。演劇や発表形式を通して、力をつけることができたと思いました。でもまだ定期考査では解答の書き方を間違えていたり、知識にも多少の漏れがあると思いました
・自分で教科書の内容をまとめ直すとわからない部分がはっきりしたり、関連する疑問が浮かんできたりすることが多くて、この授業のスタイルがとてもいいと思いました。先生の講義のときはなかなか衝撃的なお話もありましたが、視野を広げることができたと思います。
・教科書に書いてあることだけが正しいと信じてただ覚える受動的な授業ではなく、まず常識に疑問を投げかけて、それについて自分はどう考えるか、を大切にする主体的な学びを大切にしているんだなと感じている。
・2年間通していろんな種類の授業形式で面白かった。自分は「1時間準備＋1時間発表」の形式が一番たのしかったと感じた。
・**振り返りシートを書く**のが大変だった
・授業一つ一つが内容を深く理解したりしなきゃ発表できないため、毎授業疲れた。でもそのぶんテストの時間内に頭をフル回転させることがそこまで大変でなくなってきた
・教科書には書いていない（書けない）内容をたくさん知ることができたのが面白かった
・いままで悪いと思っていた物事がいいことだったとわかったり、またその逆もあったり、社会科では特に教科書から学ぶだけでは得られなかったり、むしろ誤解してしまっているような情報が多いなと感じました。また、しっかり調べながら学んでいると、上手いこと身近な物事に繋がったりもして、改めて**社会科の学習は自分ごとで考えないといけない**と感じました。
・クラスメイト話せる時間が多く、授業が楽しいと感じた。また、このような授業形式でしたことはなかったので、新しいなと感じた。
・社会は退屈な科目ではなく、ちゃんとした知識を持って臨めば楽しいということが分かった
・最初はなんだこれって感じだったけど、だんだん慣れてきて、人に教え合う授業は特に頭に入るなって思いました。
・（生徒同士が）**教える、教えられる**ということによって、読んで書くだけの作業よりも効率よく頭に入ってよかった
・ペアワークがとても楽しかったです。ロイロノートのカードに情報をまとめるとよりわかりやすくなってとても理解できました
・ペアで分担してそれぞれ教科書内容を説明し合うやつが、説明することで自分の頭に入る上に、他のところのまとめた発表を聞け、頭に入りやすくいいなと思いました。
・お互いに教え合って、自分たちで授業をしているかのような学びができました。生徒同士だからこそ教えたいことをすんなり伝えることができて、知識がさらに発展しました。
・想像より結構楽しくて面白い
・意外と経済を学ぶのは楽しい！！
・今の日本について基礎の知識が身についてきたのを感じる。ニュースだと基礎のことは教えてくれないので（授業で）身につくのは嬉しい。
・他の授業よりいろいろなことを知ることができて楽しい
・他に類を見ない形式の授業だと。実際こう言う風変わりな授業は気になってたけど実践できないから、良かった。

・グループワークは内容を理解するのに分かりやすかった。ペアに発表するときに内容をまとめるのでまとめる力が伸びた
・発表する時に自信を持てるようになった。
・友達と発表しあったり、教科書をまとめて教え合ったりして、友達がまとめたところも覚えやすかった。自分のまとめたところは特に覚えやすかった。友達のまとめ方を真似したいなと思った。
・今まで初めて経済の学習をしてたくさん学ぶことがあったな、と感じました。
・社会をもっと学ぶ必要があるなぁ

2）自分自身が変わったこと

・（去年の）歴史の時は演劇の準備、公民の時はペアに発表、テストの時は記述が多めなど、やらなければいけないことが次々にきて、特にテストの時は情報処理能力、判断能力が格段に上がったと思います。
・共通テストでこの能力を活かして最終的には、北海道大学に行きたいです。高校に入ってからは、部活との両立なので、効率的に勉強していくことにも活用していきたいです。
・多面的、多角的なものの見方が前よりもできるようになった。第二第三の理由や背景について気づきやすくなった。それが国語や数学，理科にも生きてきている。
・ニュースを見て、「なぜこれはこうなっているのか」という**疑問が多く浮かぶようになり**ました。例えば鶏肉の価格が上がっているというニュースでは、鳥インフルエンザが発生してしまったのかな、と考えました。そして**そのことを家族と話し**て、輸入しているエサの価格とも関連しているのではないかなどと考えることができるようになりました。
・劇などの形式で発表することで、観てる時もやっている時も授業をこれまで以上に楽しめるようになりました。
・日常生活の中で、例えばニュースを見ているときに、「このニュースにも誰かの私欲が入っていて、偏った見方になっているのではないか」などと、今までとは違った視点の考えが浮かんでくるようになった。
また選挙にも興味を持つようになって、参議院選挙の時は新聞で各政党の公約を読んでみたり、自分ならどこに投票するか考えてみたり、実際に親の投票について行ったりした。
・社会で起こっていることを、いろいろな視点から検討することができるようになりました。また、定期テストを通して、求められている解答がどのようなものなのかを、問題文からしっかり考察する力もついたと思います。
・どれだけ具体性や独自性を持たせることが大切かということ。
・実現可能かはさておき、教科書に載っていること以外に、自分でアイディアが出てくるようになった。
・時間があるからと言ってやることを甘えて進めないようにする訓練ができた。人に簡潔にわかりやすく説明しよう！という意識ができた
・社会科の授業では、ペアやグループになって自分の知っている知識や考えたことを共有することができるため、より深く考えることができたと感じました。自分自身としては、相手にどう伝えれば理解してくれるかを考えることができました。そして、相手に伝える力、相手のことを聞く力を伸ばしていきたいと思いました。もっと法律のことを勉強したり、ペアワークやグループ学習をしていきたいと思いました。
・グループ発表やペアになるなど、誰かと一緒に学んでいく授業が日常になっていたので、少し失敗しても「次はこうしよう」と考えることができ、普段話さない人に話しかけたりだとか、発表の作り上げ方（グループも一人でも）だとかが、**毎回すこしずつ成長していくのを感じ**ていました。
・最初は政治に興味がなくあまり考えずにネットの言葉を信じていたが、公民の授業を受けてきて、政治に関するニュースを見るようになり、政治について考える機会が増え、自分の意見をもつようになった。この学習を通して、メディアや教科書の言葉を鵜呑みにせず、様々な視点で考えられるようになりたいと思った。他の国のメディアについても知りたいと思った。留学をまたして他の国での教育を受けてみたいと思った。他の国では日本がどう思われているのか、社会の授業でどのようなことを学ぶのか気になった。
・政治や金融に興味を持つようになった。よく先生が答えだけ言わないことがあるので、自分で考えられるようになった。
・（今までは）暗記科目として社会を勉強していたのが、広げた知識から自分で思考して学ぶという体制に変わった。
・教科書では、労働者の権利がしっかりと保障されているため、将来自分たちは安心して働くことができるかのように書いてあるが、実際家族に仕事について聞くと、周りの目があるためそんなことできるはずがないといっているので、**教科書はあ**

くまでも理想について書かれているのかと思った。

- 社会は暗記科目ってイメージであまり、疑問とかが生まれなかったけど、なんでこうなるのか、解決策はないのか、など疑問がたくさん出てくるようになりました。
- 去年から今年までの授業は自分の中で講義から話し合いがメインとなり、最初はこの授業についていけるか心配でしたが、授業中の先生の話を聴くと、話し合いやグループ発表などの重要性が理解できました。社会の授業によってプレゼン能力や、短い時間で大まかな内容を把握する力もついてきたような気がします。来年も社会は藤牧先生が担当してくれるよう願っています。
- ノートなどをまとめるのが楽しいと思えるようになったこと
- ペアで教科書の内容をまとめて教えあうのが楽しみながらまとめる難しさを感じたが、理解が深まった
- 人の話をちゃんと聞く力がついた。
- 授業では教科書の内容を自分でまとめて説明したりして、短い時間でまとめて説明する力がついたと思うので良かった。考査が近くなると、ノートまとめをしたり、好きな教科の発表なども楽しかったし良かったと思った。確認チェックや考査の問題の出し方や方法も考えやすかった。この授業の形式で社会がさらにできるようになった。この学習を利用し、ニュースを見る時などにいろいろなことを考えながらみようと思う。
- 後期の授業によって説明が上手くなった。なんなら教科書の内容を覚えるよりも説明がどうしたら伝わるかに重きを置いていた。
- 社会は暗記科目だと思っていたけど、内容を理解したら暗記しようとしなくても大体わかるということがわかったから、内容を理解することに重点を置くようになった。
- 社会のことに意見が出るようになりました。これからは親にも意見していきたいです
- 最初公民苦手だなーって思っていたけど自分でノートまとめてペアに発表してってやっていると社会科の中で一番得意だと感じられるまでになった。
- 経済の仕組みを社会的な目で見ることができるようになった
- 今までと違うやり方で自分が社会について考える力がついた
- ニュースの信ぴょう性を疑うようになった。
- まとめるのが上手に早くできるようになった。反論とか自分の意見を持てるようになった。
- 社会に対して疑問を持ってみられるようになったこと

3）この学習を利用してこれからどのようになっていきたいか、何をしていきたいか

- 自分は、社会科の授業において、人に話かけることや、普段やらないことに挑戦できるチャンスが多いことが1番ありがたいことだなと思っているので、もっと人に話しかけることに慣れて、それが上手なひとになりたいです。また、特にペアごとの発表の時には、自分の準備時間の長さをほぼいつも実感しているので、関連することを調べて理解して発表に入れこめるくらい自分の理解力をあげたいです。
- 授業では、またグループ発表をしたいです。勉強で言うと、大学受験まで自分のキャパを広げられるだけ広げていきたい。
- 社会科では投資や経済学などの他分野を学習するための足がかりとしての学習を，他教科や日常生活全般だと多面的多角的なものの見方やプレゼン力（要約力, 整理する力, メタ認知力）をさらに磨き, 思考力が強い人になりたい。
- さらに視野を広げていきたいです。日本で起こっていることを、自分たち一般市民や国のトップだけではなく、他の国はこのことをどう考えてどう対応しているのかや、他の国で起こっていることを日本はどう受け止めているのか、自分たちにどんな影響があるのか…というふうにさまざまな視点からものごとを見られるようになっていきたいです。
- 簡単に物事を信じず、もっと疑って自分の中で答えを出せるようになりたいです。もう少し政治について詳しくなりたいのでもっと政治の仕組みについて調べていきたいです。
- 誤った情報を鵜呑みにしたり、誰かの私欲で偏った情報を信じたりしないように、色々な視点を持って情報に触れていきたい。18歳になったら選挙に行く。いろいろなテレビ局のニュースやネット上の書き込みを見て、自分の中で疑問を持ち、納得できるまで調べてみる。
- 物事を一方向からだけではなく、いろいろな見方で捉えられるようになりたいです。私が身につけたいと思っている寛容さを手に入れるのにも、その見方が大切なのではないかなと思います。言いたいことをすばやく、わかりやすくまとめて伝える力が今の私には足りていないので、その練習をしたいです。

・社会を自分の手で変えられるような行動力のある人間になっていきたい。自分の将来と繋げられるような学習をしたい。
・ほとんど話した事ない人の前でもちゃんと喋って説明するのにもっと慣れていきたい
・常に世界情勢や日本国内の政治の様子を把握し、それについての自分の考えを持てる人間になりたい。成人してからは、自分の考えに基づいて選挙権を行使したい。学習面では、発表形式で知識や解法を説明していきたい。
・自分は、社会科の授業において、人に話かけることや、普段やらないことに挑戦できるチャンスが多いことが一番ありがたいことだなと思っているので、もっと人に話しかけることに慣れて、それが上手なひとになりたいです。また、特にペアごとの発表の時には、自分の準備時間の長さをほぼいつも実感しているので、関連することを調べて理解して発表に入れこめるくらい自分の理解力をあげたいです。
・多角的に見るということを学んだのでもっと外交的になってさまざまな意見を知った上で自分の意見を貫けるようになりたい。自分の考えを持つことを大切にしていきたい。
・今回の授業では教え合いが多く、その時の自分は教科書の内容をいかにまとめるかということに必死であったため、今後は教科書から生まれる疑問を深掘りしていけるようになりたいと思った。
・これからも社会だけではなく、情報を鵜呑みにせず、自分で深掘りして考えていきたい。人によりうまく教えられるようになりたいです。
・ノートなどをまとめるのが楽しいので、スケジュール帳などを使ってもっと自分の行動を見つめ直して、いい時間の使い方ができるようになりたい
・社会でなんとなく生きるのではなくて、物事をしっかり考えながら生きていきたい。まずは知識をつけて、ニュースを観て現在の国際社会を理解していきたい。
・ペアワークなどで培ってきた知識を活かして、知らない人にでも簡単に説明できるようになりたい。
・板書を写すだけの授業は苦手なので、今のようなペアワークをしていきたい。
・日銀総裁候補になったつもりで演説する授業はすごく印象に残っています。このような授業を活かして、経済のことを知識だけではなく、中身までしっかり理解できるようになっていきたいです。
・この学習を利用して、論文などを作る時にまとめ方を参考にしたい。書物などのいろいろなものをまとめる時に役に立てたい。
・政治やお金の動きを理解して社会全体の動きがわかるようになりたい。どこに行っても生きていけるように物事をいろんな側面で見られるようにしたい。
・日本はどうなるのか、どうしていけば良いのかを学んだことを使って考えて自分にできることはしていく
・いろんなことに興味を持って取り組む。新しい知識を取り入れまくる
・ニュースとかで真偽を疑う。いろいろな本を読んで知識とか読解力を増やす。
・何が正しいのか見極めて暮らしていきたいです。もっといろんな視点の社会や経済を学んでみたいです。

【番外編】

・藤牧先生の知識の豊富さに驚く日々だった。こんなふうにふざけても許してくれる藤牧先生が好きになった。藤牧先生の自慢の生徒になりたい。藤牧先生とお話するために、たくさん授業中でも発言したいです。
・この世の先生が全員藤牧先生だったらいいなと一瞬思った。でもやっぱりそれはだめだと思った。自分が今まで一回も考えたことないことばっかり言ってくれる藤牧先生が大好きになった。藤牧先生の瞳に、乾杯★藤牧朗よりもいっぱい知っていていっぱい考えていっぱい温泉を愉しむ人になる
藤牧朗と社会について熱く深く語り合いながら混浴したい

（4）3月（前年度生、年度の終わり）

・今までの社会の授業は椅子に座って黒板を写してそれを覚えるだけだったけど、こうして哲学対話やさまざまなことをすることで、アイディアが思いつきやすくなったり、逆の立場から考えることもできるようになってじぶんの成長を感じました。
・社会の授業は、教科書にある内容の説明を聞くだけの面白みのない授業だと思っていました。しかし、実際の藤牧先生の授業ではほとんどが自分たちで考えた「社会」問題についての議論であり、元々議論や話し合いでの対話が好きな私にとっては楽しい授業でした。今までの学校教育で習った社会とは違い、歴史を通じた「現代社会」という実感を持ったことを学べたと思います。一年間ありがとうございました。
・（去年までの授業は）グループ活動はあったものの、考えを述べ議論する機会はあまりなかった。しか

し、この社会科の授業ではそのような機会がたくさんあり、考えを早くまとめる力や適切な伝わりやすい表現などを使う力を以前より明らかに身につけることが出来た。また、与えられた課題だけをやるのではなく、生徒自らが課題を持ってきてそれについて議論することで、世界情勢や社会問題に目を向けることにも繋がり、有益な授業だと感じた。

・先生含め他の人の意見は多様で自分の考えに近いものもあれば全く反対のものもあり、これからの関係や対話の練習をする上で大きな糧になった。中学3年という多感な時期にこのような経験ができてよかった。一番印象に残ったのはやはり哲人。15歳という幼い年齢で大人もやらないような経験ができて良かった。

・他の授業よりも圧倒的にグループワークが多く、生徒主体の授業だったと思います。先生はよく先生ご自身の意見を聞かせてくださいましたが、納得がいかなかったり反論したくなることも多々ありました。しかし、以前の私はそのような意見を持つことすらしていなかったので、これは1年間をかけて得た成長だと捉えています。

・今年度の授業は、確かに初めは先生の授業方法に戸惑いました。しかし、普通の授業ではできないような授業スタイルや、先生の話を聞くことができたので、良かったと思います。今日のアイスブレイクはとても楽しかったです。クラス全員で遊べる機会はあまりないので、良い機会になりました。また、集まって話すのも、さまざまな人の考えが合わさりより深い話になると思いました。

・毎授業の最初に誰かが議題を提示して、それについてみんなで考えて話し合うという時間が楽しくて好きでした。この時間のおかげで、いろいろな社会問題や身近なテーマについて知り、考えることができたと思います。またそれだけでなく、私は去年までは一部の人としか仲良くなくて、話したことがない人がたくさんいましたが、この時間のおかげで色んな人と話す機会ができ、クラスで話せない人がいなくなりました。このような授業形式で1年間授業を受けられて、すごく良い経験になりました。楽しかったです。

・社会は教科書に書いてある重要な所を先生が黒板に書き、それを生徒が書き写すものだと思っていたら実際には違っていて驚いた。始めは自分たちで議題を出して話すということに戸惑っていたが、身近な社会問題についての他人の感想、意見を聞くことができるのはとても面白くて新鮮だった。

・今年度の授業で一番印象に残ったのは、哲人になりきって話をする授業です。そもそもの授業が話題を持ち寄って議論するという今までにない形式であり、そこに順応してきた頃にまた新しい形式がやってきて動揺したのを覚えているからです。最初は哲人についてよく調べて本人のように話さなければならないので、とてもハードルが高いように思えましたが、調べていくうちにその人の考えていることが理解できて、他の哲人の話を聞くのも楽しくなりました。**ただ覚えるだけが勉強ではない。ただテストとにらめっこするだけが勉強ではない。一年を通じて学んだことです。**

・社会という教科（特に公民）があまり好きになれなくて、いやだなぁと思いながら一年がはじまりました。でも藤牧先生の授業は想定していた座学！暗記！みたいな授業（勉強）ではなくて。**ワイワイ楽しみながら、それでいて自分の意見を言えることで理解も深まる、経験のない形式で楽しく授業を受けることができました。**時間割に社会があると嬉しかったです。社会（勉強）は今も好きではないけど、藤牧先生の授業は好きです。

・今までの社会は必要事項を覚えていくだけの授業だったが、今年度の社会はその知識を前提に自分で文章を作成して発表する機会が多く、(このような提出物など)思考力が上がったと実感した。特に、ジグソー法では、頭の中では理解できていても言葉に出して言うことが簡単そうに見えてなかなかできず、自分の無力さを痛感するとともにアウトプットすることの重要さを学んだ。

・従来の受け身の授業とは違って、生徒主体の授業だった。はじめは強い拒絶感を感じたが、次第に慣れていった。先生の授業では生徒同士で議論を行うことが特に多かった。最初は自分の反対意見を徹底的に論破しようとしてしまうことが多かったが、相手の新しい視点にハッとさせられたり、「結論は出ない」という結論が出てきたりするようになると、**議論の目的が「論破すること」ではなく、「自分の視野を広げること」に変化**していった。藤牧先生の授業では教科書に載っているような知識は授業外で学ばないといけないためそれがかなり億劫だったが（実は今もかなり億劫だけれど)、せっかくの「視野を広げる」機会を知識のインプットに使うのもなんだか本末転倒だということは理解できるようになった。

・今の大学入試制度では、やはり知識は求められるし、議論するにしても知識は土台となるので、インプットはとても重要だと思っている。しかし、いくら知識を持っていてもそれを活かす力がなければまさに「無用の長物」になってしまうと思う。

それは、英語の文法も難しい単語も完璧なのに、いざ喋ると自己紹介すらままならない日本人学生の状況と似ていると思う。『せっかく有限の脳の容量を使うなら、それを活かす力も一緒に学んでいかないといけない。』これが、私がこの一年間、先生の授業を受けながら考えたことだ。

・3年生の1回目の授業の時、黒板を使った授業をしないと言われた時、頭は？？？の状態でした。ただ喋るだけ楽勝！なんてことを考えたりしてました。早速授業が始まって、受けてみると、自分が聞いたことのない時事問題、全く触れたことのない範囲の課題などもあり、何を話したらいいのか、話す内容はこれでいいのか、と自問自答していました。しかし、藤牧先生の授業を受けて一年がたった今、今社会が求めている力である、発言力やコミュニケーション能力を養うことができました。そしてどんな問題に対しても自分の意見を持つことができるようになりました。自分にとって新しい授業方式で最初は戸惑いましたが楽しかったです。

・「様々」で略しては大変失礼ではあるものの本当に物事に対する適切な考え方や他者に伝える時、否定する時の正しい方法を議論や議論後の先生の話において学ぶことができました。また、教科書分野においても、教科書の言っていることは実際どうなのか、について身をもって体験してきたことをもとに正しく伝えてくれたことで、日本や日本と関係している他国が行なっている実際のことについてセービングがかかっているものの知ることができて人生においていい経験となった。ありがとうございました。

・今までとは一線を画した授業形式でとても新鮮だった。授業の冒頭で社会問題について議論する時間が設けられており、自分自身時事問題にかなり関心があるため同じ年齢の人たちの意見を聞くことができる貴重な機会だった。議論の後には公民の内容も織り交ぜた解説タイムもあり、学んだことをどう言った視点から活かすと良いのかを掴むことができた。暗記科目に分類されるであろう「公民」はこれまで知識の詰め込みが基本だったが、単語ばかり覚えたところで本質を理解できていなければ意味がないのだと改めて感じた。特に宇沢氏の文章を読み、意見交換するシーンでは1年間の学びをフル活用でき楽しかった。また、メディアでは語られることのない真実に目を向けたコンテンツはかなり興味深かった。とても学びが多く、大きく成長することができたと思います。次年度も先生の授業を受けたいです。

☆なお、上記（4）においては、このアンケートをとる前に、生徒には「すでに成績は確定しているので、この記述は一切評価には影響しない」と伝達済みであるということを付け加えておく。

1.「学び」の本質と現状への危機感

（1）「学び」と「勉強」の峻別

私が長年、教育現場において「学習方法」や「授業方式」の改善にこだわり続けてきた理由は、多種多様な授業に参加する生徒たちの姿を間近で観続けてきたからに他ならない。そこには、文字通り一生懸命に努力し、知識を習得しようとする生徒たちの姿がある。しかし、その懸命な姿を肯定しつつも、私は一つの根本的な問いを抱かざるを得ない。それは、彼らの営みが真の意味での「学び」になっているか、あるいは単なる「勉強」に留まってはいないか、という問いである。本稿において「学び」とは、好奇心を起点とした自発的な探究を指し、「勉強」とは外部から強いられた受動的な知識習得を指す。学びを一時的なものに終わらせず、生涯にわたって継続させるための必要条件は、“「学び」を「勉強」にさせない”ことである。すなわち、生徒の中に「挑戦する意欲的な心（アントレプレナーシップなど）」をいかに育むかが、教育の成否を分けるのである。

（2）「先送り」される教育課題の危険性

教育現場や保護者の間には、「今はとりあえず詰め込んで（無理やり勉強させて）、志望校に合格してから学び方を変えればいい」という考え方が根強く存在する。しかし、この「先送り」の論理は極めて危険である。コーフォート調査（参考文献『大学生白書2018』参照）によれば、大学生になってから学び方や思考の枠組みが劇的に変化することはほとんどないという結果が出ている。つまり、中等教育段階までに「受動的に学ぶ習慣」が定着してしまった者は、高等教育や社会において自ら積極的に動くように修正されることが困難になる。中高生で「板書を写し、テストに出る重要事項を暗記する」という学習に終始してきた生徒が、大学入学後に突然「自律的な市民」へと変貌することなど、原理的に期待できないということなのである。

２．教科教育における「探究化」の必然性

（１）一方的な知識注入型教育の限界

従来型の、いわゆる「チョーク＆トーク」の授業は、効率的な知識伝達を目的としてきた。特に社会科系科目においては、教科書の内容や教師の板書が「唯一無二の正解」とされ、それを忠実に再現できる生徒が高評価を得る仕組みとなってきたといっても過言ではないであろう。このような環境下で、成績上位を狙う「利口な子どもたち」は、批判的に考えることや新しい視点からの挑戦を「無駄なリスク」として切り捨てるようになる。権威に恭順し、思考を停止させることが「正解」とされる教育が、果たして民主主義社会を支える「自律的市民」を育てることに繋がるだろうか。むしろ、情報の氾濫する現代社会において、権威や周囲の空気に盲目的に流される若者を養成しているのではないかという危惧を、私は禁じ得ない。

（２）イベントではない「教科の探究化」

昨今、学校現場では「探究」の名を冠した行事やイベントが盛んに行われている。しかし、生徒も保護者も、最終的には評定に直結する「教科の成績」を最も重視しているのが現実である。であれば、特別なイベントとしての探究ではなく、日常の「教科指導」そのものを探究化していくことこそが肝要である。特に公民分野は、本来、実社会の諸課題と密接に関わる学問である。しかし、生徒たちからは「地理や歴史は興味があるが、公民は何のために学ぶのかわからない」「眠くなる」といった声をしばしば耳にする。これは、公民が「暗記すべき抽象的な知識」として提示されているためである。この現状を打破するためには、教員が明確な意図を持ち、知識注入型から「獲得型」の学びへと舵を切る必要がある。

３．「獲得型教育」による授業実践の展開

（１）疑似的な社会の構築と「実践知」

公民の授業において、私は「演劇的手法」を用いた学習活動を取り入れてきた。これは教室内に心理的安全性と伴った「疑似的な現実社会の場」を形成する試みである。単なる知識の伝達ではなく、生徒自身が社会の一員として対話や議論及びドラマワークなどを行い、対立する利害や合意形成の難しさを実体験することで、公民を学ぶ価値を身体感覚として理解させることを目的としている。つまり、社会の課題解決につながる「実践知」を重視しているのである。

（２）対話的・協働的な学びのダイナミズム

授業において、生徒たちは仲間との対話を通じて以下のプロセスを辿る。 1）「自分で学ぶ」：基礎的な知識を自力で獲得する。 2）「仲間と学ぶ」：意見交換を通じて、自分一人では到達できなかった理解の深まりを実感する。 3）「協働の価値の発見」：一緒に課題を解決することで社会性を養い、民主主義の基礎となる心を育む。ここで重要なのは、教師の介入の在り方である。生徒同士の議論が盛り上がっている際、教師が「正しい答え」を提示するために不用意に割り込むことは、生徒の対話力を奪う行為に他ならない。教師の真の役割は、生徒一人ひとりの「学ぶ力」を信じ、一歩引いて全体を観察し、彼らが自力で学びを深められる「場」を設計し続けることにある。これは、「答のない」問いを扱う授業をすすめていくことである。

（３）知識の価値の再発見

「生徒主体の学び」と言うと、しばしば「知識を軽視している」という誤解を受ける。しかし、実際の実践を通じて、生徒たちは対話や議論を楽しむためにこそ「知識が必要である」という事実に自ら気づき始める。「知識があるからこそ、友だちと楽しく対話ができる」「知識があるからこそ、より深い議論ができて楽しい」という経験は、強制された暗記とは比較にならないほどの学習意欲を生む。知識を押し付けるのではなく、生徒が自ら「知識の重要性」を理解し、主体的に身に付けていくという好循環が生まれているのである。

４．～実際の授業～

以下に、実際に今年度用いてきた主な授業（三種類）を紹介する。

（１）演劇的授業（１か月に１回程度）

基本的に２回の授業を１セットとして実施します。１回目は準備の時間、２回目は発表時間です。原則として、ほぼ同人数（４～６人）のグループに分けますが、グループの作り方はクラスの特性に合わせて行います。人数もメンバーも自由にすることもありますが、ほぼどのクラスでも男女混合のくじ引きでグループをつくる方が好評でした。場合によっては、一人グループ（単独）での発表も認めています。

教科書の内容の任意のテーマを発表クラス内で生徒たちに被らないように選択してもらい、1時間の授業内ですべてのグループが発表できるように生徒自身が運営します。生徒同士の評価表も事前に準備しておいて、各グループの発表が終わるごとに記入してもらいます。簡単な評価ルーブリック（またはチェックリスト）を事前に配付しておくことで、どのような発表（作品）を創っていけばいいのかの目安とすることもできるように工夫してあります。また、この相互評価（他者評価）を成績評価にも入れることで、評価する芽を育てるとともに、教員一人の目だけでないできるだけ「客観的な」評価とする工夫に努めています。

（2）ペアワーク、3人ワーク（教科書内容を身につけるための「教えない」通常授業）

教科書を徹底的に使った授業です。2人（ペア）または3人のグループをつくり、きょう学ぶ教科書の2～3テーマを決めて、それを各一人1テーマ担当としてグループ内で共有していく型の学びです。いわゆるジグソー法を用いたものといえるでしょう。各ペア、グループ内では、そのテーマについて詳しくわかっている人は自分だけなので、その理解した内容をメンバー（相手）に理解できるように伝えることが求められます。

具体的には、「本日学ぶ教科書の範囲全体を読む→担当課所の精読とまとめ→同じ担当課所担当者同士の内容確認（エクスパートグループの活動）→担当課所の説明」と進めます。

これを始める前に、「これだけは必ず入れてください」という必要事項を示しておきます。

ここでは、説明しあった後に、リフレクションとして相互評価（他者評価）をしてもらいます。このことにより、自分（のまとめ方や説明）を振り返ることが促され、学びが深まっています（「生徒の想い」参照）。

さらに、次回の授業始まる時間に、生徒の理解の深化を目指して、「前回学んだ内容に関連した社会に関するテーマを出して4人程度のグループで話し合う時間」をとっています。これにより、教科書を超えて生徒が自分ごととして捉えて考える時間となっています。

（3）まとめの授業としてKP法（紙芝居プレゼンテーション法）を用いた教員が「社会」を解説する授業

教員からの説明が中心になると、生徒の中で「どうせ先生が教えてくれる」という意識がむくむくと大きくなるので、注意を要するのですが、次の二つの理由で意図的にガツンと説明をするときをつくっています。

一つは、生徒同士の教え合い及び学び合いの授業は、生徒の学ぶ意欲や学び姿勢は著しく伸びることは観えるのですが、そこには差があり、また学ぶべき知識として抜け落ちているところがある可能性があります。そこを平準化して「穴」がないようにすることです。

もう一つは、こちらの方が大切なのですが、教科書内容から発展させた学びを提供することです。教科書に直接は記載されていないけれど関連のあることや異なる見方など、生徒が「もっと知りたい」「もっと学びたい」と感じることを意図して提供することで、生徒の好奇心や学びたい心を刺激していくことです。実際、多くの生徒が「もっと知りたい」「もっと学びたい」「もっと話したい」と感じるようになっているようすが見受けられます（「生徒の想い」参照）。

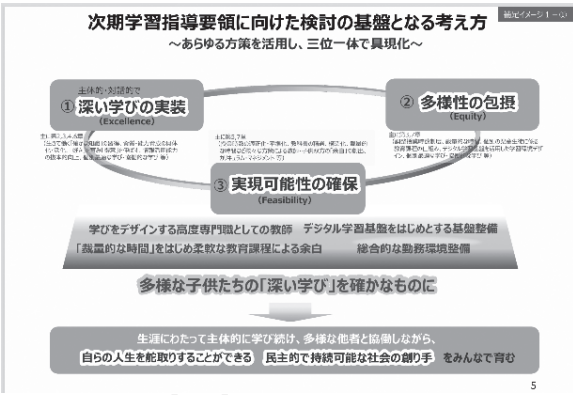
5．現代教育における課題と克服すべき壁

（1）教育現場に潜む阻害要因

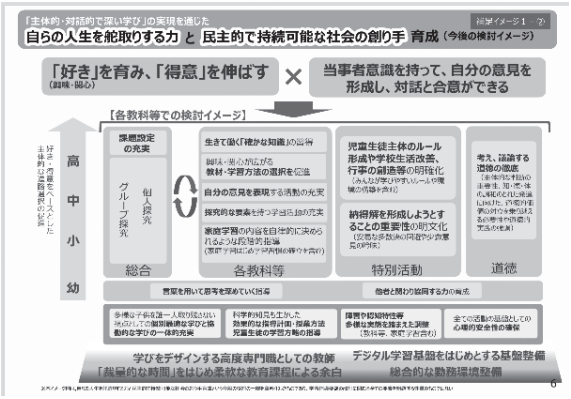
こうした「自立的な学び」を推進する上で、克服すべき課題は少なくない。第一に、必要以上に「教えなければならない」という強迫観念を感じている教師の存在である。自分が授業の主役として教えなければいけないという気持ちから、生徒に主役の座を譲れない教師は、知らず知らずのうちに生徒の自立性を奪っている。第二に、目前の試験での高得点や合格実績のみを追求する保護者や、その不安を煽る教育業界の構造である。これらは「効率性」という名の下に、教育の本質を「責任回避的な一方的行為」へと矮小化させている。

（2）次期学習指導要領との整合性

令和7年9月に示された中央教育審議会の「論点整理」においても、民主主義社会を支える自律的市民の育成は喫緊の課題として挙げられている。本実践が目指す「答えが一つに決まらない問い」に対し、立場の異なる他者と妥協点を探りながら合意を形成していくプロセスは、まさに次期学習指導要領の理念を先取りするものである。 また、本実践のような授業形態であっても、従来型の大学受験等において、充分な成果を出せることは、これまでの筆者の実践データからも明らかである（法政大学教職課程年報 Vol.22 掲載の拙稿参照）。探究的な学びと学力向上は、決して矛盾するものではないことがわかる。



【図 1】論点整理より①



【図 2】論点整理より②

令和７年度　後期中間考査

中学３年生

社会科（公民）問題

３年　　組　　番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【注意】

・自筆のノート（綴じられたものに限る）のみ持ち込み可である。

・読み手が分かるように意識して丁寧に記述すること。採点者が読めないものは採点できない（得点がない）。

・ルーブリックのあるもの（問題１～問題５）は、ルーブリックに従って解答すること。

・解答は、すべて日本語で「解答用紙」に記入すること。

・試験中は、問題に関する質問に答えることはできない。

【画像①】試験問題表紙

令和７年 11 月 27 日実施　　［出題］ 藤牧　朗

☆以下の問題１から問題６までに解答しなさい。問題１～問題５は解答用紙①に、問題６は解答用紙②に解答しなさい。ただし、問題１～問題５の解答は、解答欄にはみ出さないように記入すること。

問題１．今期、社会科の授業で学んできて、あなたは経済とはどのようなものと捉えるようになりましたか。「経済（または経済学）がどれだけ社会の役に立っているかを踏まえ、「経済（または経済学）の役割」についてあなた自身の考えを述べなさい。（8 点）

問題２．昨今の日本国内における労働に関する課題を挙げ、どのようにすれば解決すると考えられるのか、あなたの考えを述べなさい。ただし、関連する法律名を一つ以上入れて記述しなさい。（8 点）

問題３．日本の社会保障制度は大きく四つに分類される。その中で、最も関心のあるものを選び、その概要を説明し、さらに現代的な課題を挙げ、それに対するあなたの考えを述べなさい。（8 点）

問題４．現代の社会においては、「経済のグローバル化が進んでいる」と言われていますが、「グローバル化」が好いと考えられる点と悪いと考えられる点についてそれぞれ具体例を挙げ説明しなさい。（8 点）

問題５．需要と供給、この二つの変化によって価格と量が決定されるとされる理想的な市場があるとする。そこにおける需要曲線、供給曲線とここにおいて決まるとされる均衡価格の関係を表すグラフを描き、そのグラフの見方を示しなさい。（8 点）

問題６．経済に関連する以下の A～F の文中にある空欄に適切な用語を入れて文章を完成しなさい。ただ

【画像②】試験問題（一部）

後期中間考査　　中学3年社会（公民）ルーブリック　　【出題及び作成】藤牧　朗

問題1（知、思、学）				
	名人	有段者	修行中	初心者
内容	題意に適した独自の自分自身の考えが具体的に示されている。(6)	題意に適した考えが述べられているが、一般的または抽象的である。(4)	題意に適したと思われる考えが示されているが一部に明らかな誤りがある、または誤解が含まれている。(2)	題意に適した記述がない。(0)
表記	解答内容が題意に沿っていて表現が適切かつ誤字脱字がない。(2)	―	解答内容が題意に沿っているが、表現面において不適切なところがある、または誤字脱字がある。(1)	解答内容が題意にあっていない、または表現に不適切なところ、または誤字脱字がめだつ。(0)

問題2（知、思、学）				
	名人	有段者	修行中	初心者
内容	題意に沿ったうえで、具体的な課題と独自の解決策が示されている。(6)	題意に沿って、課題と解決策が示されているが、一般的または抽象的である。(4)	題意に沿って、課題と解決策が示されているが、一部に明らかな誤りがある、または誤解が含まれている。(2)	題意に適した考えが述べられていない。(0)
表記	題意に沿っていて表現が適切かつ誤字脱字がない。(2)	―	解答内容が題意に沿っているが、表現面において不適切なところがある、または誤字脱字がある。(1)	解答内容に題意に沿っていない、または表現に不適切なところ、または誤字脱字がめだつ。(0)

問題3（知、思、学）				
	名人	有段者	修行中	初心者
内容	適切な選択がなされ、①概要説明、②課題提示、③独自の具体的解決策の三つが示されている。(6)	適切な選択がなされ、①概要説明、②課題提示、③独自の具体的解決策のうち二つが示されている。(4)	適切な選択がなされ、①概要説明、②課題提示、③独自の解決策のうちいずれかが示されている。(2)	題意に適した左記のことが述べられていない。(0)
表記	題意に沿っていて表現が適切かつ誤字脱字がない。(2)	―	解答内容が題意に沿っているが、表現面において不適切なところがある、または誤字脱字がある。(1)	解答内容に題意に沿っていない、または表現に不適切なところ、または誤字脱字がめだつ。(0)

問題4（知、思、学）				
	名人	有段者	修行中	初心者
内容	題意に沿って、適切に両面から具体的な例を挙げて説明がされている。(6)	題意に沿って両面から説明がされているが、一部に誤解又は誤りがある。(4)	題意に沿っての説明があるが、一方からの説明しかない。(2)	題意にあった説明がされていない。(0)
表記	題意に沿っていて表現が適切かつ誤字脱字がない。(2)	―	解答内容が題意に沿っているが、表現面において不適切なところがある、または誤字脱字がある。(1)	解答内容に題意に沿っていない、または表現に不適切なところ、または誤字脱字がめだつ。(0)

問題5（知、思、学）				
	名人	有段者	修行中	初心者
	指示したもの全てが適切に記入された作図がされ、必要な説明が付けられている。(6)	指示したもの全てが適切に記入された作図がされているが、必要な説明が不足している、または誤りがある。(4)	指示したものが記入された作図がされているが、不足しているものがある、または一部に誤りがある。(2)	題意に適した左記のものがない。(0)
形式	求められている図としての形式ができている。(2)	―	求められた図の形式として、一部不足がある。(1)	求められている図の形式として不適切である。(0)

【画像③】試験用ルーブリック

6．結論 ―社会とつながる学びへ―

（1）家庭や社会への波及効果

本授業を受けた生徒の上の感想からは、学校での学びが家庭内での対話に波及している様子が見て取れる。「社会について家族と話すようになった」「教科書にある理想と、現実の社会の差異について親と議論した」といった声は、学びが実生活と結びつき、生きた知識として機能している証拠である。 中高時代の学びが『社会に出ても役に立たない』という悲観的な言説を覆す鍵は、授業の中にこそあることが分かる。

（2）今後の展望

「生徒の学ぶ心」を信じ、生徒を主役に据える授業は、教師にとっても挑戦かもしれない。しかし、生徒たちが「自ら学び、自ら身に付ける」姿を目の当たりにするとき、教育の真の豊かさが立ち現れる。今後は、本稿で示した評価ルーブリック（画像③参照）のさらなる精緻化を図りつつ、教科の探究化を通じて、不確実な未来を自律的に生き抜く市民を育成することを目指してさらに精進し続けていきたい。

7．最後に

学校評価アンケート（令和 7 年 11 月実施）における自由記述～「力が伸びたと実感できる授業、先生の指導について」にて、個別の先生にむけてのコメント～から

- グループでやったり 2 人で説明しあったり、もう 2 年くらい経つので慣れてきたが、知識が頭に入ってきてとても面白い！高校でもこの授業を続けて欲しい。
- 力が伸びたと思う授業は社会です。藤牧先生の授業は文字を書いた紙を黒板に貼って先生が少し説明したり、生徒達が誰かに教科書の内容を説明したり、一定の範囲のノートまとめをしたり、たまにロイロ・ノートで確認チェックなどをします。その授業方法で今まで平均点以下だった考査が平均点以上になりました。
- 主体性を持って取り組むことが出来るようになった
- 社会はペアワークや班での発表などあってわかりやすい授業内容。
- 藤牧先生の授業で文章をまとめ、出力する力がついたと思う。
- 公民の授業ではグループごとの学習が多く、私は全体でやるときより他の人に質問しやすくてありがたいです。
- 社会の藤牧先生の授業で力が伸びたと実感できた。社会は本当のことを教えてくれるし、自由な授業なので力が身についた。
- 目に見えているものが全て事実ではないことを知れたり、自ら学びたいという意志を持つことができたから。
- 藤牧先生　考え方の幅が広がる
- テストで持ち込めるノートを授業を受ければ作れるような内容で成績を上げられた
- わかりやすいし授業後にすぐいなくならないから質問しやすい
- 社会の授業でプレゼンをするときに、仲間と話し合えて深められる。
- 藤牧朗先生の授業は自分たちで学びを深めやすい

【番外編（道徳）】

- 藤牧先生の道徳では藤牧先生自身の体験をもとに教科書の内容をより人生経験について深く学習することができる。また、自分と藤牧先生の考え方が似ていてとても共感でき、ストレスがやわらぐ時間となっている。
- 藤牧先生の道徳が面白い

【注記】

上記は、2025 年 12 月のまでの状況（年度途中）で記述されていることをご了解いただきたい。

文中の「現勤務校」とは、北海道にある私立の中高一貫校のことを指している。

【参考文献】

- 秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』改訂版（有斐閣）2015
- 石井英真『授業が変わる授業評価深化論』（図書文化）2023
- 市川伸一『教えて考えさせる授業』の挑戦（明治図書）2013
- 川嶋直＋皆川雅樹『アクティブラーニングに導くKP 法実践』（みくに出版）2016
- 奈須正裕『「資質・能力」と学びのメカニズム』（東洋館出版社）2017
- 西岡加名恵、石井英真『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価』（日本標準）2019
- 藤牧朗『“深い学び” を促す「アクティブラーニング型授業」と評価を考える～今年度の中等教育学校における実践を中心に～』（法政大学教職課程年

報 Vol.20）2022
・藤牧朗『高校 1 年物理基礎指導を通し、中高一貫校で学び意義を考える～改訂された学習指導要領の理念を活かした学習指導～』（法政大学教職課程年報 Vol.21）2023
・藤牧朗『新科目『公共』の存在意義とその価値を活かす指導を考える～改定された学習指導要領の理念を活かした学習指導②～』（法政大学教職課程年報 Vol.22）2024
・藤牧朗『演劇的手法や KP 法、グループ学習を交え、授業の中に社会の場を作る』（Career Guidance Vol.414 リクルート）
・藤牧朗『学び直しゼロ！「3 学期の授業」のポイント〔高等学校〕「真正の学び」を実現する「獲得型」の学び』（社会科教育 No741. 明治図書）
・藤牧朗『〔公民〕時空を超え、効率的に、深く学ぶ、愉しく学ぶ！』（社会科教育 No.760 明治図書）
・藤牧朗『〔歴史的分野〕“生きた学び”へ活き活きした「学びの場」を創る ICT 活用法』（社会科教育 No.767 明治図書）
・溝上慎一『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』（東信堂）2014
・溝上慎一責任編集（京都大学高等教育研究開発推進センター／河合塾編集）『どんな高校生が大学、社会で成長するのか －「学校と社会をつなぐ調査」からわかった伸びる高校生のタイプ－』（学事出版）2015
・溝上慎一『大学生白書 2018』（東信堂）2018
・森朋子『学習科学入門－「学び」を学ぶ』（放送大学面接授業配布資料）2013
・渡部淳『教師　学びの演出家』（旬報社）2007
・渡部淳＋獲得型教育研究会『学びを変えるドラマの手法』（旬報社）2010
・渡部淳＋獲得型教育研究会『教育プレゼンテーション』（旬報社）2015
・渡部淳＋獲得型教育研究会『AL 型授業が活性化する参加型アクティビティ入門』（学事出版）2018
・渡部淳『アクティブ・ラーニングとは何か』（岩波新書）2020
・『高等学校学習指導要領』（文部科学省）2018
・『論点整理（令和 7 年 9 月 25 日）』（文部科学省中央教育審議会教育課程企画特別部）2025